

受け3億8千万円ものヒモ付き基金であり、実際使える基金は、四億そこそこだ。三俣地域振興も全額を国県が持つてくれる訳では無く当然ウラ負担が必要になる。いくら有っても足りない状況なのに絵画の購入などんでもない。

腐る物でもなく賞味期限が有るわけでもない絵画の購入は、浅貝の美人の湯の購入のように地域活性化と他の地域に負けない観光地造りに懸命な姿勢をかって付ける予算と違う。

長引く不況で税収が見込めない現況にあって、南田中線の跨線橋のように連結部のキャンバーが外れ、いつ落下するか分からない場所もある。

一般の家でも欲しい物は我慢するし、必要なものにしか金を使わない。従って一般会計に反対する。

## 反対討論

佐藤 守正

町長が今為すべきことは、かつてない財政難の時期を迎えて、どのような哲学を基に、どのような展望を持って乗り切るかを、町民に示し理解を求めることであります。

しかるに町長はそれをしてしないばかりか、従来と全く同じ手法で予算を組みました。バブル期の予算組みの手法を大きく変えることなく踏襲したのです。すべての特別会計、事業会計に、従来と同じ手法で一般会計からの繰り出しをしていることにそれは示されています。

町長は、16年度中に財政建て直しの専従職員を置いて研究し、17年度予算に反映するとのことですが、それは財布の中に小銭しかなくなつてから慌てるようなものです。

一般財源の不足分を財政調整基金を取り崩して埋めるといふ初めての事態について、その事実を

率直に町民に明らかにし、共にこの非常事態を乗り切ろうという呼びかけをしなければならなかったはずで、専従の係を置いて対策を練るといふだけでは、広く町民全体の問題意識にはなり得ず過ぎています。

## 反対討論

今村 定一

町も財政危機と言いながら予算案で示す危機とはどこで理解をすれば良いのか。危機と判断するのは不測の事態に備えた貯蓄（基金）が無くなつた時点を言うのか、そうなる事を待っているのかのような予算案には、どう考えても理解は勿論のこと、容認出来ない。新年度に財政改革に向けて専門部局を設置して対応すると言ふが間に合うのか疑問である。町を動かす原動力は町長一人ではな

いはず、現状は独裁政治であつて財政は放任主義と感じている。「小さくてもキラリと光る町づくり」この思いはどこに消えたのか。今一度思い出して欲しい。肥満になつた体制は思い切つた計画と我慢で実行しなければスリムな体制には戻れない。苦しむ前に手立てをすることが長の責任と判断するが、今はその手法はお持ちで無いようなので反対します

## 反対討論

高橋 博幸

もう町はお金の使い方を変えないと黒字倒産する。

2年後の予算編成の困難が懸念される中、従来手法の新年度予算を通してから行財政抜本改革を考へるのではだめです。

公約で利益誘導型でなく財政規律が機能した町政を行なうとしながら「なかなか事はそうはうまくいかない」と開き直り、

議会の失笑を買いました。町の施策を決める上で、課長会議の位置付けを補助的機関であらうとも『横断的経営戦略会議』と位置付け、有効に機能させることは町長の判断で可能ですが、それもせず全行政組織を挙げて難局に立ち向かう姿勢が全く見えます。

「合併しない、きらりと光る町を目指す」と言いながら、長期戦略のない行き当たりばつたりの施策展開で、日一日と湯沢町の孤立化が進んでいきます。

また、本来取り組むべき「この地域をどのように存続させていくか！」の大命題を言葉たくみに産業振興にのみ特化した「観光立町宣言」というイベントにすり替える姿勢を許せません。

以上の点から一般会計予算に反対します。